

各 位

2022年3月18日

株式会社 山と溪谷社

<https://www.yamakei.co.jp/>

ハトはオスもミルクを出して子育てする！？ 身近すぎる鳥、「ハト」の面白エピソードが満載！  
『となりのハト 身近な生きものの知られざる世界』刊行

インプレスグループで山岳・自然分野のメディア事業を手がける株式会社山と溪谷社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：二宮宏文）は、『となりのハト 身近な生きものの知られざる世界』を2022年3月19日に刊行します。



馬鹿っぽい、汚い、何考えているのかわからない……など、マイナスイメージも多く、時には害鳥として駆除もされる身近な鳥、ハト。

そんなハトには、知られざる驚きの能力と、人との深いつながりがあった――。

「ハトはオスもミルクを出して子育てする」

「下を向いて水をごくごく飲むのは実はハトだけ？」

「ハトは首を振って歩いているわけではない」

「50億羽もいたのに、人に食べられて100年で絶滅したハトがいる」

「伝書鳩はエジプトのファラオも利用していた」

その他、日本や世界のユニークなハト、絶滅したハトのエピソードなど、思わず誰かに話したくなる秘密が満載。

知ってしまえば、もうハトのことを無視できなくなる？

身近な生きものの世界を見る目が変わる、一冊です。

## 第2章 日本のゆかいなハトたち 身近編

### ハト

日本のハトは二種	40	ハト派なのに戦いの神？	60
ドバトというハトはいない	42	神社仏閣ラブ	62
いろんな色がいる	43	ヒルは誰である	64
ドバトはなぜ公園にいるの？	44	エサやりは愛鳥思想も後押し	65
大きな建物がマイホーム	46	逃げたハトが供養	67
もともとは産の鳥	51	神の使いから、転じて香島へ	69
家畜化は中東から	53	ドバトが滅びている？	72
日本のドバトは多様	55	猛禽類に狙われる	73
皇族はハトが好き	58		

## 第3章 日本のゆかいなハトたち 遠方編

### アオバト

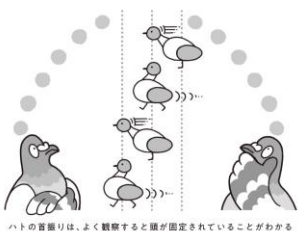
美しい黄緑色のハト	92	果はなかなか見つからない	97
尺八の音色のような声	93	森のハトが見たければ海へ行け	100
北へと挑んだアオバト	95	ハトは温泉を見つめる	105

柔らかな思考の持ち主	83
なぜ街鳩になったのか	86
癒やしの声の正体	88

したかのように、はつきりと残っていることがある。粉塵がさらさらと付いてハトの形として残ったのだ。とくに全面ガラス張りの建物に、そんなハトがぶつかった跡がたまにあるので、注意深く探すと見つかるだろう。

### 首を振って歩いているわけではない？

ある日、テレビ番組を見ていたら、芸人さんがハトの物真似をしていた。首を前後にピョピョコ振りながら歩く姿は確かにハトそっくりである。ハトといえど、この首を前後に振って歩く姿が定番だ。この首振り歩きは、昔から理由が気になってしかたがない人が多いようで、鳥の歩行やハトの首振りを研究している知人の藤田拓樹さんは、テレビや新聞、雑誌からずいぶん取材を受けたそうだ。その藤田さんの本「ハトはなぜ首を振って歩くのか」を参考にその理由を考えてみたい。



ハトの首振りには、よく観察すると頭が固定されていることがわかる

トが歩く様子を横から秒間30コマで撮影したイギリスの研究だ。それによると、ハトは歩きながら首を振っているのではなく、頭を静止させていることがわかった。

ハトが歩くときの様子はこうだ。

- ①首を伸ばして頭を静止。
- ②頭の位置をキープした状態で首を揺め、体を引き寄せるように前へ進める。
- ③また、首を伸ばして頭を静止。
- ④頭の位置をキープして体を前へ進める。

これを高速で繰り返して歩いて首を振っているように見えるのだそうだ。

### 頭が赤くないのにズアカアオバト

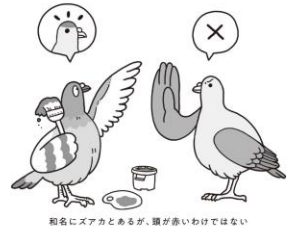
亜熱帯に属する地域が大半の南西諸島は、本土とは違ったユニークな生きものたちの宝庫だ。本州に住んでいる私にとっては、出かけるたびににもっとワクワクする地域である。日本のハト類にも、南西諸島に行かないと見られない種が生息している。その出ないに胸がときめく。ズアカアオバトもその一つで、屋久島、種子島以前の島々に分布するアオバトの仲間だ。

バツと見ればアオバトとよく似ている。オスの翼が紫色でメスは緑色という特徴も同じである。しかし、よく見ると相違点がある。大きさは約三五センチメートルとやや大きく、色も黄色みか少ない緑色である。また、アオバトは下腹部が白いのが特徴だが、ズアカアオバトの下腹部は緑色で見分けるのはそれほど難しくない。尺八のような音色の声はアオバトと同じだが、「ブクオクオ」とずっと抑揚がない声で繰り返すので聞き分けも難しくない。また、そもそも南西諸島にアオバ

トがいることはかなりのレアケースであり、逆に本土にズアカアオバトがいるのもレアなので、見た場所ができれば混同することはないだろう。

ところでこのズアカアオバト、頭赤というわりには頭がちょっと赤くない。時期によって頭の色が変わるのかもしれないが、一年中ずっと緑色のままだし、オスとメスでも変わりはない。一体全体、なんでこんな名前がつけられているのだらうか。

じつはズアカアオバトは、日本だけでなく台湾やフィリピンにも分布するハトで、台湾の島は頭がほのりオレンジ



和名にズアカとあるが、頭が赤いわけではない

## 【もくじ】

- 第1章 ハトという鳥
- 第2章 日本のゆかいなハトたち 身近編
- 第3章 日本のゆかいなハトたち 遠方編
- 第4章 世界のハト、絶滅したハト
- 第5章 ハトはいつでも人のとなりに

## 【著者】

柴田佳秀(しばた・よしひで)

1965年、東京生まれ。東京農業大学卒業。テレビディレクターとして北極やアフリカなどを取材。「生きもの地球紀行」「地球！ふしぎ大自然」などのNHKの自然番組を数多く制作する。2005年からフリーランスとなり、書籍の執筆や監修、講演などを行っている。主な著書・執筆に『講談社の動く図鑑 MOVE 鳥』（講談社）、『日本鳥類図譜』（山と溪谷社）、『カラスの常識』（子どもの未来社）など。日本鳥学会会員、都市鳥研究会幹事。

## 【商品詳細】

書名： とりのハト 身近な生きものの知られざる世界

著者： 柴田佳秀

定価： 1,485円(本体1,350円＋税10%)

発売日：2022年3月19日

仕様：四六判・224ページ

ISBN:978-4635063104

<https://www.yamakei.co.jp/products/2821063100.html>

【山と溪谷社】 <https://www.yamakei.co.jp/>

1930年創業。月刊誌『山と溪谷』を中心に、国内外で山岳・自然科学・アウトドア等の分野で出版活動を展開。さらに、自然、環境、ライフスタイル、健康の分野で多くの出版物を展開しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証1部9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

---

## 【本件に関するお問合せ先】

株式会社山と溪谷社 担当：手塚

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング

TEL03-6744-1900 E-mail: [info@yamakei.co.jp](mailto:info@yamakei.co.jp)

<https://www.yamakei.co.jp/>